

平成 29 年度図書館事業評価 2 次評価各委員コメント・会長提案まとめ案

29 年度目標	
(1) 利用者参加型の活動を通して魅力ある書架づくりをすすめ、資料の活用を促進します。	
29 年度実績	
<p>(1) ひばりが丘図書館で利用者参加型講座「POP をつくろう あなたの心を動かす一冊」(全 3 回連続) を実施し、成果物を利用した展示や広報を行いました。※参加者：21 名 (定員 20 名/途中欠 1 名)</p> <p>①講座成果物 (POP・書評) を、7 月～翌年 3 月まで全館を巡回展示 展示書架に、自由に感想を投稿する「いいね！」カードとボックスを配置</p> <p>②講座内容報告とあわせて図書館ホームページ・図書館だより・図書館情報紙ちらつとに掲載</p> <p>③POP・書評をまとめた冊子を作成し、参加者配布と地域・行政資料室で閲覧に供しました</p> <p>(2) 28 年度に引き続き、中央図書館青年期コーナー隣接書架で、4 月から 12 月まで武蔵野大学生のすすめ本展示を行いました。</p>	
図書館協議会委員による二次評価	
評価	A : 5 人・無 : 3 人
<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代に向けた企画作りを今後も増やしてほしいです。 ・展示期間の蔵書回転率が展示前と比べて、約 2.7 倍増加している点を高く評価します。 ・図書館ならではの読書を中心に据えた参加型講座の実施、およびその後の取り組みにより若い世代を取り込めたことは、評価できる。 ・ホームページ、図書館だよりはとても充実していると思います。開いたときに、思わず読みたくなります。ただ、次の段階として「利用者参加」の「参加」の部分でしょう。「参加してもいいんだ」と知らせることに力を注ぐべきなのかもしれません。 ・利用者参加型講座の実施は、評価できると思います。 ・H28 年度と比べ貸出数微減ではあるが、蔵書回転数が増加しており、資料の活用を促進した効果が出ており、参加型という工夫は評価できます。 ・今後も引き続き、魅力ある利用者参加型講座の企画、実施を希望します。 ・魅力ある書架づくりのために、利用者参加型の取り組みは有効だと思います。 ・地元の大学生との協働は武蔵野大に限らなくてもよいのでは。 	
会長提案 (まとめ案)	
<p>利用者参加型の活動として、POP 作りの講座開催とその成果の展示、および市内大学生のすすめ本展示等を実施したことはおおいに評価できます。引き続き若い世代を対象とした企画の増加を期待します。</p>	

29 年度目標

- (1) スペースの限りをふまえ、物理的空間に頼らない形でも資料と利用者の出会いのあり方を検討します。
- (2) 資料の刊行状況を調査し、同様の分野の資料提供に気を配るとともに、貴重な資料の保存に留意します。
- (3) 昨年度に引き続き中央書庫の整理・保存と地域館の開架資料の活性化を図ります。

29 年度実績

- (1) ホームページの新刊案内の方法を見直しました。新刊案内の数は年間 24 タイトルから 800 強タイトルに増加し、情報提供を強化できました。また、都立レファレンス担当者会議にてパスファインダー都内リンク集事業を提案、参加しました。
- (2) レファレンス記録などの実績に基づき、植物図鑑や国語辞典などは、地域館にも研究書を配置し、地域館でのレファレンスニーズに対応しました。新刊購入以外に既刊 144 冊を再配置しました。
- (3) 近年廃刊が相次ぐレファレンス紙資料の刊行状況を確認し、代替資料の確保や Web での情報入手が可能かの確認および資料の保存を進めました。

図書館協議会委員による二次評価

評価

A : 5 人・無 : 3 人

- ・レファレンス資料の活用が促進されるよう、利用者への情報提供の充実をお願いします。
- ・今後も新刊案内によって、情報提供を強化していくことを望みます。
- ・新刊情報を担当者が絞るのではなく、利用者が選択できるよう広げたことはよいと思う。
- ・もちろん、最寄りの図書館に目的とする本があるにこしたことはありませんが、まさに「スペースの限り」を考えると、どれだけスピーディに目的の本にたどり着き、手に取れるか。今後はそのことが問われていくのかもしれない。
- ・新刊案内の数の大幅な増加は、情報提供の強化という点で評価できます。
- ・新刊案内の方法を見直したことやパスファインダーを活用する方向性など、今後のレファレンス利用を促進させる可能性があると思います。
- ・引き続き、資料の保存と活用を期待します。

会長提案（まとめ案）

新刊案内の件数の大幅増加、レファレンスニーズに沿った参考図書配置の見直し等、利用者図書館資料の出会いを演出する工夫が適切になされていると評価します。レファレンス紙資料の保存については引き続き慎重に進めていただきたいと思います。

29 年度目標

(1) ひばりが丘図書館にて、欧米言語以外の児童書を 30 冊購入します。

29 年度実績

(1) 日本の絵本が翻訳された作品を中心に、韓国語版 16 冊、中国語版 22 冊を購入しました。
児童書における外国語資料の所蔵冊数は 2,283 冊となり、欧米言語以外の資料は 236 冊で目標の 10% を達成しました。

外国語絵本回転率 1.25 回 (1,279 冊/1,605 回) 平成 28 年度 1.30 回 (1,185 冊/1,543 回)

新規購入・昨年度購入した資料の回転率

中央：0.4 回 (約 1 年) 48 冊 中央・ひ：0.2 回 (2 ヶ月弱) 86 冊

図書館協議会委員による二次評価

評価

A：5 人・無：3 人

- ・外国語の絵本があることを PR し、活用をしてもらえるような工夫が必要だと思います。
- ・今後も欧米言語以外の資料の購入を望みます。
- ・各国の絵本の原語版とその日本語訳も欲しい。英語、中国語、韓国語以外の言語も各 2～3 冊あると、多様性が感じられる。(すみません。希望になってしまいました)
特に、韓国語版、中国語版の購入は評価できると思います。(友好関係強化の側面からも)
- ・利用回転率の向上に向けた PR の改善と蔵書数を現状の 2 倍程度にまで増やせればと思いますが、外国語資料の年度毎の蔵書目標を着実に達成したと評価します。
- ・外国語絵本がいっそう活用されるよう具体的な PR を期待します。

会長提案 (まとめ案)

外国語絵本の蔵書数が目標値を超えた点はとても評価できます。今後は、英語、中国語、韓国語以外の外国語についても収集範囲を広げることと、蔵書回転率 (貸出冊数 ÷ 蔵書冊数) をもう少し上げる努力を望みます。

29 年度目標

- (1) ひばりが丘図書館のヤングアダルトコーナーをリニューアルします。
- (2) ノンフィクション資料の購入目標を、ヤングアダルト購入冊数全体の 30%とし、それを維持します。
- (3) ヤングアダルトの年代に役立つ書評講座を開催します。

29 年度実績

- (1) 読書や勉強に利用しやすいよう専用閲覧席を設置し、中高生に身近な「進路」「部活」「勉強法」のテーマ展示、中学生のおすすめ本 5 冊の POP 展示を行いました。
- (2) ノンフィクション資料の購入は 43.5%、目標値を上回りました。
- (3) 大学教授を講師に迎え、書評講座を実施しました。
演題：「YA 書評講座～本を読んで感じた『!』や『?』を文章にしてみよう！書き方、おしえます～」
(2 回講座)
参加者 第 1 回 4 名・第 2 回 3 名
講師 宮川健郎氏 (武蔵野大学文学部教授)
参加者の書評は、本とともに全館で巡回展示し、HP にも掲載しました。

図書館協議会委員による二次評価

評価

A : 5 人・無 : 3 人

- ・若い世代に向けた PR に工夫が必要だと思います。講座の内容などは魅力的だと思うので、参加者が増えるようなしかけ (PR) に期待します。
- ・ノンフィクション資料の購入が目標値を上回ったことを評価します。ただ、書評講座の PR には、もう少し工夫が必要と考えます。
- ・取り組みと目標設定は評価できるが、今後は裾野を広げる企画が実施できるとよい。
- ・とても面白い講座だと思います。ただ、かなり頻繁に図書館に行っているつもりですが、書評講座のことなど知りませんでした。普通の子はもっと知らないのかも。
- ・書評講座を実施は評価できますが、実施時期や内容を考えていく必要があると思います。
- ・YA 世代の利用がひきつづき低迷しているなかで、YA 図書の購入を進めたことや斬新ともいえる書評講座の実施が、ひばりが丘図書館の児童図書の貸出増につながったと思います。参加者が非常に少なかったことは残念。
- ・図書館に来る YA 世代の裾野を広げるためにも、講座の開催にプラスして今後は学校とのタイアップも積極的に進めていただきたいと思います。
- ・専用閲覧席や、中高生に身近なテーマ展示が中高生の利用を増やしているようですので、他館にも広げてほしいと思います。

会長提案 (まとめ案)

YA 資料の購入面で、ノンフィクション資料の充実が図られている点は特に評価できます。また、POP 展示や書評講座の開催などの取り組みもおおいに評価されますが、今後は学校とのタイアップ等が望まれます。

29 年度目標

(1) 原本を移管された市史編纂資料の電子化を進めます。

29 年度実績

(1) 市史編纂資料として原本が移管されている文書の電子化を進めました。

電子化資料数 1,085 点、電子化画像数 21,140 点

- ・対象とした文書は、移管当初から既に経年の劣化が見られ、判読あるいは開帳が困難な古文書とし、電子化作業に耐え得るかの観点で、劣化状態の調査を含め、調査結果に基づいて、開帳できないものは全体の現状を撮影することで電子化しました。
- ・1984 年 3 月に田無市立中央図書館が編集・発行した『田無神社 (1)』を図書館ホームページ「デジタル西東京市」コーナーで公開しました。
- ・図書館ホームページ「国史跡下野谷遺跡関連資料等の紹介」コーナーに西東京市発行資料を追加掲載しました。

図書館協議会委員による二次評価

評価

A : 5 人・無 : 3 人

- ・電子化作業により、貴重な資料が保存・閲覧できるようになりました。市民への PR も増やしてほしいです。
- ・電子化により閲覧しやすくなると同時に、保存環境を向上させることができた点を高く評価します。
- ・市営図書館ならではの事業なので、今後も息長く丁寧に取り組んでほしい分野である。
- ・特に古文書については、電子化が必要かと思います。少しでも多く電子化作業を進めていただきたい都思います。
- ・電子化のための環境整備と共に実際に郷土の貴重資料の電子化を進めていることは、地域に関する資料保存は当該公共図書館の務めとして評価できます。
- ・図書館の責任で市史編纂資料が電子化されているのは大切な役割だと思います。

会長提案 (まとめ案)

市史編纂史料の電子化は、きわめて意義のあるもので、引き続き電子化を進めていただくことを望みます。あわせて西東京市関係資料の電子化事業についても、拡大継続されるよう望みます。

29 年度目標

(1) 利用者からのリクエストに応じてのデージー図書（プライベート含）を作製します。

29 年度実績

(1) 利用者からリクエストされた図書のうち、68 タイトルを作製し提供しました。平成 26 年度から累計 239 タイトルになりました。

図書館協議会委員による二次評価

評価

A : 5 人・無 : 3 人

- ・大きな成果だと思います。音訳者の方の後継者育成に今後力を入れて頂きたいです。
 - ・デージー図書を作製できる後継者の育成に今後も力を入れて頂きたい。
 - ・西東京市のデージー図書のレベルは非常に高いと聞いている。この地域だけでなく全国で役立っていることを広報し、音訳者の確保と育成が進むよう工夫してほしい。
 - ・デージー図書の作成についてはとても評価していますし、今後も頑張っていたいただきたいと思います。
- それとは別個に、デージー図書についての「具体的な事々」をもっと知らせる必要があるのではないのでしょうか。作成現場、ご苦労されていることなどを知ってもらうことで、さらに底上げされていくのではないかと思います。
- ・評価できます。
 - ・音訳者の確保や後継者の育成が困難な中、多岐にわたるプライベートデージー作製への取組は評価できます。ボランティアに頼る部分が多い分野だけに、図書館組織の在り方としての整備が今後必要になると思われます。
 - ・今後もリクエストに応じたデージー図書の作製をお願いします。

会長提案（まとめ案）

西東京市図書館のデージー図書作製は、全国的にも先行していて、市民としてその取り組みを誇りに思います。今後ともデージーボランティア養成活動を続けるとともに、成果についての広報も望みます。

29 年度目標

(1) デイジー図書 200 タイトルのアップロードを目指します。

29 年度実績

(1) 29 年度中、271 タイトルのデイジー図書を国会図書館へデータを提出し目標を達成しました。

図書館協議会委員による二次評価

評価

A : 5 人・無 : 3 人

- ・素晴らしい成果だと思います。多くの方にこれからも利用して頂けるよう、邁進して下さい。
- ・デイジー図書のアップロードが目標を大きく上回る数を達成できたことを評価します。
- ・この成果を広く宣伝し、音訳者の確保に役立ててほしい。
- ・タイトル数の「価値」をもう少し詳しく説明した方がいいのではないのでしょうか。
- ・評価できます。
- ・国会図書館へのアップロードが目標を大きく超える数で、しかもその利用が大変多いことは、西東京市図書館の作製レベルの高さをしめしていると思います。
- ・ボランティアとの協働が今後もよい形で進むよう、願っています。

会長提案 (まとめ案)

デイジー図書のアップロード件数について、大幅に目標値を超えたことをおおいに評価します。

29 年度目標

(1) 中央図書館に法律情報コーナーを設置します。

29 年度実績

- (1) 分類によって法律書が分散する問題に対応するため、トラブル種別に整備した実用書に加え、六法・判例等を重点的に収集し「暮らしに役立つ法律」コーナーを中央図書館に設置しました。
- ・法律関係雑誌『ジュリスト』『判例タイムズ』を配架しました。
 - ・法テラスの案内や支援に関する相談内容別の配布用リーフレットを用意しました。
 - ・コーナーについての広報を図書館だより・多摩六都図書館ニュース・図書館情報紙ちらつとに掲載し、周知を図りました。

図書館協議会委員による二次評価

評価

A : 5 人・無 : 3 人

- ・利用者の課題解決への支援となるような取り組みとなるよう、期待します。
- ・リーフレットの相談内容別の需要を踏まえて、新しい情報提供に努めて頂きたい。
- ・「暮らしに役立つ法律」コーナーの設置はとても良いと思います。
- ・図書の利用回数が示されているので、利用状況は良かったのだと思いますが、図書館の規模やこの方法を今後も続けるかなどは、状況を見極めながらの判断が必要かと考えます。
- ・「暮らしに役立つ法律」コーナーに法テラスの案内や支援に関する相談内容別の配布用リーフレットを置いているのはとてもよいと思います。

会長提案（まとめ案）

利用者の課題解決への図書館による支援活動の一環として、良い取り組みだと思えます。利用状況等をみながらコーナーの充実発展を望みます。

29 年度目標

(1) 中央図書館に英語多読コーナーを設置します。

29 年度実績

(1) 継続的にリクエストがみられた洋書・英語絵本等を収集し、シリーズ別レベル別に整備した英語多読コーナーを中央図書館に設置しました。

- ・現在、10 シリーズと雑誌 1 誌を配架しました。
- ・設置に先駆け、ハンディキャップサービスと協力し、ひばりが丘図書館で 2 月に関連講座「英語多読はじめのいっぽ～絵本から洋書へ～」を行いました。
※参加者：28 名（定員 30 名/当日欠 4 名）うち親子参加 5 組

図書館協議会委員による二次評価

評価

A：5 人・無：3 人

- ・好評な企画のようですので、今後も継続して行って頂きたいです。
- ・英語関連の需要の高さを踏まえ、今後も関連講座の定期開催を望みます。
- ・5 年間の獲得目標に「多文化共生サービス」とあるが、「多文化サービス」の違い？
英語多読は、一種の多文化サービスともいえるが、現在世の中の英語熱が高まっている中、わざわざ図書館で取り組む必要があるか疑問がある。取り組む場合は多読の内容を多文化的なものにするなどの工夫がほしい。
- ・周囲で聞いたところ、図書館で告知されていた「英語多読」は気になるようです。興味のもち方はいろいろだと思いますが、その関心の芽は大切にしていきたいと思います。
- ・今後、多読コーナーの活用と周知に力を入れてほしいと思います。
- ・講座開催による相乗効果もあったと思います。今後一層需要の多くなる分野であり、期待度も高まると考えられますので、継続した取組と図書の購入を期待します。
- ・英語多読をより進めていくとしたら、多文化共生のためなのか、英語学習の方法の一つなのか、市の図書館で取り組んでいく方針を示すべきではないか。

会長提案（まとめ案）

英語多読コーナーの設置は、多くの市民に好評な企画として迎えられており、おおいに評価されますが、今後の継続発展にあたっては図書館側としてのサービス方針の整理も課題として残されております。

29 年度目標

- (1) 行事の PR についての充実に努めます。
- (2) 小学校等児童向けイベントで活用できるよう、大型絵本を 30 冊購入します。

29 年度実績

- (1) おはなし会開催日に入り口におはなし会の案内を掲示しました。また、おはなし会で読んだ絵本を館内に展示し、内容をアピールしました。
- (2) 大型絵本を 42 冊購入しました。イベント等で活用しています。

図書館協議会委員による二次評価

評価

A : 5 人・無 : 3 人

- ・おはなし会に関わる団体や保護者に向けた本の紹介や講習会などの取り組みも必要な課題だと思います。
- ・今後も行事の PR に努め、より多くの人がおはなし会に参加することが>できる環境整備を望みます。
- ・大型絵本が子供向けイベントで活躍している様子を聞いています。とてもいいですね。
- ・大型絵本の活用はとても良いと思います。更に進めてください。
- ・「おはなし会がたのしい」との口コミが効果のある PR の一つかと思います。そして実施している様々な児童サービスが貸出増の支えになっていると評価します。
- ・放課後の小学生が「忙しくなっている」中で、今後、おはなし会の開催の仕方や回数を検討する必要があるのでは。小学生の居場所となっている児童館や学童クラブに出前おはなし会をすることも検討するべきでは。

会長提案 (まとめ案)

「お話し会」の PR、大型絵本の購入について評価します。今後は、図書館内での実施だけでなく、学童クラブ等への派遣型の形態も検討されることを望みます。

29 年度目標

(1) 絵本と子育て事業のフォロー事業を3歳児健診時に実施し、継続して子どもの読書活動の支援をします。

29 年度実績

(1) 3歳児健康診査時にフォロー事業を8月から開始しました。実施回数20回、参加者数84組。
(参加率10.9%)

図書館協議会委員による二次評価

評価	A:4人・B:1人・無:3人
<ul style="list-style-type: none"> ・始めたばかりの事業なので、反省点を生かし、実施場所やPRの工夫などを今後検討して頂きたいです。事業内容自体はとても良いので、是非継続して取り組んで行って頂きたいです。 ・3歳児健診時にフォロー事業を試みたことには、評価します。しかし、3歳児健診の項目が多い点からも、今後は別の機会に事業を行うことを検討すべきでは、と考えます。 ・良い試みだと思います。参加しやすいように、工夫して行ってほしいと思います。 ・今すぐサービス結果が現れる分野ではないので地道な取り組みが求められます。 ・3歳児検診における、絵本と子育て事業のフォローは、大変重要だと考えます。スマホ育児全盛時代において、絵本の大切さを知ってもらう機会は本当に貴重です。実施会場の物理的条件もあろうかと思いますが、職員の皆様の知恵を結集して、少しでも参加率が上がるような取り組みをお願いいたします。 ・3歳児健診時の忙しさを考えると、参加率10.9%は仕方がないかと思います。3歳児の保護者に事業が知られてきたと質問への返信をいただきましたが、3歳児の保護者は年々別の人になるので、参加が大きく増えるのはむしろ嬉しいのでは。折角の働きかけなので、市内公的機関の子育て広場（児童館やコール田無やルピナス・基幹型保育園など）とのタイアップ出前事業への変更も検討していただきたい。 	
<p>会長提案（まとめ案）</p> <p>読書習慣や図書館利用の定着のために、3歳児検診時のフォローアップ事業を試み、10%超の参加率を得たことをおおいに評価します。今後、3歳児検診時に行くか、別の機会を探すか、試行錯誤が求められるところですが、いずれの形にせよフォローアップ事業が必要であるという事は理解されました。今回の経験を活かし事業の継続を望みます。</p>	

29 年度目標

- (1) 利用者向けにデータベースの講演会およびショートセミナーを開催し、利用者の調査研究を支援します。
- (2) レファレンスサービスの PR のため、ポスターの作成やレファレンス事例の紹介をおこないます。

29 年度実績

- (1) 国立国会図書館デジタルコレクションの講演会を開催しました（7月）。
 演題：「国立国会図書館デジタルコレクションの世界～身近になる貴重書・絶版書～」
 参加者：28 人
 15 分程度で申し込み不要の気軽に参加できるショートセミナーを 2 回実施しました（10・12 月）。
 演題：朝日新聞データベース「聞蔵Ⅱビジュアル」ショートセミナー
 参加者：1 回目 0 人、2 回目 5 人
- (2) レファレンスサービスをわかりやすく PR するポスターを作成しました。
 全国月刊誌にレファレンス事例の寄稿をおこない、西東京市および西東京市図書館のレファレンスサービスを対外的に PR しました。掲載面は館内に掲示し、利用者への PR にも転用しました。

図書館協議会委員による二次評価

評価

A：5 人・無：3 人

- ・良い企画だと思います。定期的に行うことで利用者に PR できるのではないかと思います。
- ・今後も講演会や PR ポスターなどを活用し、より多くの人にレファレンスサービスを利用してもらえるよう活動することを期待します。
- ・講演会は良いと思いますが、ショートセミナーは参加人数が少なく少々寂しく感じます。
- ・データベースショートセミナーは参加状況を見ながら年に数回の実施が望ましく、その際にはレファレンスの PR を加えると良いのではないかと。
- ・ポスターの貼りだし位置は予約棚や貸出機周りなどにしたら、もっと目立つのでは。

会長提案（まとめ案）

新聞データベースをはじめ、データベースは市民にとってたいへん役に立つものですが、その存在や使い方が分からなければ、利用することができませんので、PR と使い方の講習会は必須です。広報と講習会の継続的な実施を望みます。

29 年度目標

- (1) 新任図書館員むけのレファレンス研修を実施し、基礎的なレファレンス知識の獲得を目指します。
- (2) レファレンス記録の方法を整理・共有することで、記録の集積・活用を目指します。
- (3) レファレンスだよりを発行し、全館的なレファレンスへの関心・スキル向上をねらいます。
- (4) 外部研修に積極的に参加し、得た知見の還元をこころがけます。

29 年度実績

- (1) レファレンス研修を行いました。
内容：レファレンスインタビューとレファレンス資料に関する基礎的な講義と演習
対象：新任図書館員 5 名
- (2) レファレンス記録の方法の整理・共有を行いました。
レファレンス記録数：302 件
(内、国立国会図書館レファレンス協同データベースへの登録数：182、登録したレファレンス事例から 1 つが、全国の中から PickUp 事例として選ばれました)
- (3) レファレンスだよりを発行、レファレンス事例と知識の共有を行いました。
対象：西東京市全館図書館員
発行回数：計 3 回
- (4) Web 情報の活用方法等を中心に、レファレンス担当が外部研修に参加しました。
詳細：「YA サービスにおけるレファレンス協同データベースの活用」「地域資料のレファレンス協同データベース活用」「国立国会図書館人文社会科学データベースの活用方法」

図書館協議会委員による二次評価

評価

A : 5 人・無 : 3 人

- ・研修の成果を職員全体が共有し、利用者へのレファレンス・サービス向上に生かして頂きました。
- ・今後も研修を継続的に行い、その成果が市民に還元されることを期待します。
- ・評価できます。
- ・貸出は高い水準にある一方で、多くの図書館でレファレンスの利用が活発とは言えません。しかし今後の図書館への信頼を一層高めるために、継続した技能の習得は必須と考えられますので、レファレンスの PR とともに今後も計画的な研修を期待します。
- ・今後も研修を重ねて、実務に生かして下さい。

会長提案 (まとめ案)

新任図書館員向けレファレンス研修の実施、レファレンス協同データベースへの積極的な事例報告等、図書館員のレファレンス技能の向上に努めていることを評価します。一方で、図書館には何でも尋ねることができるということを利用者に知ってもらうための「レファレンス自体の普及」にも努めるよう望みます。

29 年度目標

- (1) 子ども向け講演会を開催し、この地域の歴史をわかりやすく学ぶ場を用意し、その後の学習への手がかりを示し、図書館利用の促進を図ります。
- (2) 西東京市縁の人を講師に招き、大人向け講演会を開催します。
- (3) 図書館だより等で、情報提供を継続します。

29 年度実績

- (1) 子どものための地域を知る講演会を夏休み期間に実施 子ども 6 名・大人見学者 12 名の参加
演題：「田無村の半兵衛さんと村人たちの世界」 講師：行田健晃
田無市史編纂資料も読み解き、近世の研究者であり講師が子ども向けに企画
- (2) 西東京市在住の縁の文化人を講師に招き、3 回の講演会を実施 参加者計 97 名
 - ①演題：「マザコン将軍徳川綱吉」 講師：吉田豊
 - ②演題：「夏目漱石と文豪たちに学ぶ楽しい手紙と愉快的な人生」 講師：中川越
 - ③演題：「明治 150 年記念 東京を目ざした明治の若者たち」 講師：石井正己
- (3) ①リニューアルしたカラー版の「図書館だより」に講演会の報告と講師からのコメントを掲載しました。
 - ②中央図書館内の展示ケースで縁の方関連の資料を展示しました。
 - ・「山本亨介さん関連」～将棋人気にあわせて、加藤一二三氏などのサイン入り図書などを展示
 - ・「中川越さん関連」～講演会後に手紙原本や著書などを展示
 - ③「図書館だより」での『にんにん西東京』は第 16～19 回を更新
 - ・カラー画像を掲載することが可能となり、表現に広がりがありました。

図書館協議会委員による二次評価

評価

A：5 人・無：3 人

- ・西東京市ならではの講演内容はとても魅力的で楽しい企画だと思います。今後も継続して頂きたいです。
- ・縁の人の講演会に多くの方が参加していることから、市民の関心の高さが伺えます。今後も継続して縁の関連の活動を期待します。
- ・テーマがユニークであり、市民の関心を惹く内容でしょう。講演など、このぐらいの頻度が精一杯かもしれませんが、もう少し増やしていただければ参加しやすくなるのでは？
- ・子供向け講演会の子供の参加が少なく、残念です。子供たちも忙しいのですが…。
- ・子ども向けの郷土についての資料情報は多くはないと思いますので、この夏休みの企画は評価できます。在住講師による講演会はアンケートを見ると好評なので、在住の市民の活躍の場としても期待できます。西東京市の政策課題など、現在の問題も取り上げられればと思います。
- ・今後も地元ならではの企画を期待しています。

会長提案（まとめ案）

子ども向けの郷土史講座、西東京市「縁（ゆかり）」の人による講演会、いずれもたいへん好評を得ている西東京図書館ならではの企画で、継続実施を望みます。また、それらの開催報告を掲載したカラー版の「図書館だより」も分かりやすくおおいに評価できます。

29 年度目標

- (1) 外部書庫での保管委託を導入します。
- (2) 地域・行政資料室の書架を利用者にとって使いやすい構成に改善します。

29 年度実績

- (1) 書庫蔵書を中心に地域・行政資料の精査・整理を進め、外部書庫に、電子化済新聞折込広告 45,266 枚、図書 8,416 冊を保管しました。
- (2) 地域・行政資料室において、蔵書の一部を書庫に移動することが実現し、利用者が閲覧しやすい書架構成とレイアウトに改善できました。

図書館協議会委員による二次評価

評価

A : 5 人・無 : 3 人

- ・限られた書架スペースの有効活用、閲覧しやすい書架整備をお願いします。
- ・書架構成を組み替えたり、新たなコーナー作りをするなど、資料の整備に努めていることを高く評価します。
- ・レイアウトの改善は良いと思います。
- ・委託による外部書庫利用が可能になったことは行政内部での資料保存への理解が進んだとも考えられ、好ましいことと思いますが、根本的には共同保存庫によるスペース確保が望ましいと考えます。この推進に向け、西東京図書館のリーダーシップを期待します。
- ・一層使いやすい地域行政資料室になるよう、期待しています。

会長提案（まとめ案）

長年の書庫狭隘問題の解決の一方法として、「外部書庫での保管委託」が実現できたことを評価します。市民の共有財産である図書館蔵書資料については、保存すべきものもスペース不足で廃棄することのないよう望みます。

29 年度目標

(1) 市民ボランティアを活用した宅配サービスを実施します。

29 年度実績

(1) 市民ボランティア（市民協力員という）の募集説明会を開催
 応募人数 12 人、面談及び書類選考にて 7 人選出
 宅配利用者 9 人に試行開始、2 ヶ月間で 22 回 113（冊・件）を実施

図書館協議会委員による二次評価

評価

A : 5 人・無 : 3 人

- ・利用希望者が増えると思われる事業です。市民ボランティアの確保など、これから課題も出てくるかと思いますが、サービスが定着するよう期待しています。
- ・宅配サービスが少しずつ整備されていることを評価します。今後はより多くの協力員確保に努めることを期待します。
- ・理想はわかるが、職員対応はコストの面から無理があるのではないだろうか。
- ・大事な活動です。とくに高齢者には、この「宅配サービス」は関心をもたれているようです。ただ、ボランティアに参加する人は現役でしょうから情報は得ていますが、宅配を利用する側が情報を得ていないように感じます。まず、どのように利用をスタートすればいいのか。どのように読みたい本を見つけ、それをどう依頼すればいいのか。市報などで、何度かにわたって告知していくことは可能でしょうか。
- ・とても丁寧なサービスだと思います。評価できます。
- ・ボランティアにもかかわらず、利用者のプライバシーに深く関わらざるをえない場合もあると考えられます。高い倫理観やモチベーションが求められる分野だと思いますので、継続した研修やいずれはなんらかの形で図書館経営への参加も検討する必要があるかと考えます。
- ・宅配利用のできる市民の条件や手続きの広報を進めてほしい。
 利用者・回数の増えることで、一層個人情報の扱いに留意をしてほしい。

会長提案（まとめ案）

宅配ボランティアの募集により、宅配サービスが可能になったことを評価します。一方で、宅配利用者の要望に十分耳を傾け、より慎重な対応を望みたいと思います。

29 年度目標

- (1) 英語・中国語・韓国語の図書館利用案内を改訂します。
- (2) 多言語でのおはなし会を中央図書館以外の館で実施します。

29 年度実績

- (1) 英語・中国語・韓国語の図書館利用案内改訂版を 500 部発行しました。
- (2) 多言語行事
 - ・演題：「中国語・韓国語できく いろんな ことばでたのしむ おはなし会」(児童サービスと共催)を実施しました。参加者：21 人(子ども 7 人・大人 14 人) 会場：谷戸図書館
 - ・成人サービスとの共催行事「英語多読はじめのいっぽ～絵本から洋書～」を実施しました。(詳細は成人サービスの項目参照)

図書館協議会委員による二次評価

評価

A：5 人・無：3 人

- ・日本語を使う人も日本語以外の言語を使う人も図書館を通じて互いの言語や文化に興味関心をもち、理解深めていけるようなサービスになっていくように期待しています。
- ・今後も英語に限らず、いろいろな外国語に触れる機会を提供できる場として、図書館の活動に期待します。
- ・ハンディキャップサービスの枠組みでの多文化サービスは、日本社会や習慣について理解を促す内容(文学作品や新聞等も含め)が多言語に翻訳されて提供されることかと思うが、より広い意味での多文化サービスは、地域全体、利用者全体に関わることだと思う。Ⅱ-2-1-1(2)に、その記述があるが、多様な項目の一つなので、そこを分けるべきかと思う。
多文化サービスが単に多言語の本を整備する、多言語の本に触れる、という点に留まらず、多文化共生の地域づくりにつながることを意識してほしい。そのためには、読書活動、お話し会を通して多様な文化、生活習慣、考え方の違いの奥にあるものを理解するような取り組みを実施してほしい。
- ・英語・中国語・韓国語の図書館利用案内改訂版の発行は良いと思います。(タガログ語などの需要はどうでしょうか)
- ・多文化サービスを進めていくためのチェック項目を参考に、今後も取り組みを進めていくことを期待します。利用案内や谷戸図書館でも行事が実施され、目標通りと考えます。
- ・多言語行事のさらなる充実と開催回数の増加を期待します。
- ・外国籍の家族が図書館を活用できるよう、今後も広く利用を促進してほしい。

会長提案(まとめ案)

図書館利用案内の英語・中国語・韓国語翻訳版の改訂、多言語でのお話し会の開催等の取り組みを評価します。さらに需要のある言語についても対応することを望みます。また、多言語サ

ービスが、外国人利用者のためだけに行われるのではなく、多文化共生の地域づくりにつながる多文化サービスになるよう図書館サービスの枠組みを考えていただきたい。